

# 令和4年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立紀北農芸高等学校

学校長名： 茂田 嘉朗

めざす学校像 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業教育を通じて、「生徒を支える学校」であるとともに、「自己の将来展望をしっかりと持つ生徒を育成する学校」として地域に貢献する</li> <li>豊かな勤労観や職業観を身につけさせ、進路を自ら選択・決定する力を育むとともに、農業の担い手や関連産業で活躍できる人材を育成する。</li> <li>地域や農業関連機関等と連携し、広がりのある教育の構築により、生徒の活動成果等を地域に還元するなど、紀北地域の農業教育の中心的な機能を果たす。</li> </ul>
-------------------	---

本年度の重点目標、 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 農業教育の充実
	2 学力の向上と進路意識の高揚
	3 豊かな人間性の育成 (生徒指導・人権教育・特別支援・教育特別活動の充実)

中期的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>紀北地域の農業教育拠点校としての専門教育の推進はもちろん、地域の全日制高等学校に進みたい生徒の学びの場として、しっかりと生徒を支える学校づくりを推進する。</li> <li>農業高校として地域との連携を深め、生産流通、施設園芸、環境工学のそれぞれの学科の一層の専門性特化と情報発信に努める。</li> <li>「規律規範の確立」「豊かな心育成」「学力の育成」による人材育成。</li> <li>農業科特別選抜及び一般選抜においてより多くの農業に関心のある生徒確保に努める。</li> </ul>
--------	--

学校評価の結果と改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校ホームページ等によって公表する。</li> <li>学校運営協議会、PTA 役員会等関係部署に提出する。</li> </ul>
------------	--

達成	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。  
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自己評価					年度評価 (2月24日現在)		
重点目標					評価項目の達成状況		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	達成度	次年度への課題と改善方策	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業の専門高校として、一層、特色を生かした教育を充実させる。3学科の特色を生かした教育を充実させる。</li> <li>実習等、農業科目の学習により社会性・公専門知識の習得に前向きに取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業高等学校として専門性を生かした教育活動が展開されているか。</li> <li>和歌山農林大の習得がされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携事業(フラワーロード、交流授業等)により地域等と連携が図れたか。</li> <li>農業クラブ活動の活性化</li> <li>最新の知識技術に十分留意</li> <li>授業改善やコース制により生徒の興味関心を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業を計画的に実施し、年間5回以上取り組めたか。</li> <li>大会への積極的参加。</li> <li>最新の知識技術に留意</li> <li>授業内容や進度等の見直しに取り組んだか。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域と連携した取組、販売実習等を計画的に実施することが出来た。</li> <li>平板測量、フラワーアレンジメント協議会では、県を代表して全国大会に出場することが出来た。</li> <li>臨機応変に授業を見直した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農林大学校や地域の農家の方たちと連携した企画をより充実させる。</li> <li>農業クラブで活動している生徒の割合を増やすことが出来るよう広報活動を強化</li> <li>地域、企業と連携した企画を増やすことで、農業に興味関心を更に高めるようにする。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業を学びたい、クラブ活動、全日制課程希望など様々な目標から本校を選択した生徒が在籍している。</li> <li>基礎学力が十分に身につけていない生徒が在籍しており、授業改善や学び直し等による基礎学力の定着が必要である。</li> <li>入学した生徒に自己活躍できる人材の育成を目標としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の定着に向けた取り組みや工夫。</li> <li>生徒が達成感や充実感を味わえる工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業(公開授業)や授業参観をととした授業改善を推進</li> <li>基礎学力の充実や自ら学ぶ姿勢の育成を視野に入れた授業工夫。</li> <li>学び直しの内容や「朝学」を充実させる。</li> <li>中学までの学習理解が十分でないことから、基礎から丁寧な指導に努める。</li> <li>インターンシップ等によるキャリア教育の充実。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員が一人一回以上、研究授業(公開授業)にとり組めたか。</li> <li>グループ学習や言語活動をとり入れた授業等、工夫できたか。</li> <li>学び直し教材をとり組んでいるか。</li> <li>高校卒業時までに、社会で通用する基礎学力を獲得できているか。</li> <li>全員に面談や事前事後指導が徹底できたか。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業や公開授業を概ね実施することが出来たが、全員が取り組むことが出来なかった。</li> <li>朝学を通じて、基礎学力を向上させることが出来た。</li> <li>新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら、インターンシップを実施することが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力定着に向け、生徒が分かる、出来ると実感できるような授業をICTを活用して実施する。</li> <li>生徒の学力に応じた教材を継続的に活用することで、一人ひとりの学力の向上を目指す。</li> <li>キャリア教育(外部講師、企業連携、インターンシップ等)を積極的に行い、社会に活躍する意識を高めさせる。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別な支援が必要な生徒を本校で多く受け入れている状況がある。</li> <li>高等学校における目的意識や学習意欲が希薄で、家庭環境に問題を抱える生徒が多い。</li> <li>コミュニケーション能力や自己肯定感に欠ける生徒も多い。</li> <li>人権の意識にも希薄な面が見受けられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>規範意識、人権意識の向上への取組。</li> <li>生徒の状況把握と情報共有。</li> <li>通級指導や特別活動等により、コミュニケーション能力や自己肯定感を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身だしなみ指導を通じて規範意識を理解させる。</li> <li>人権LHRやいじめについてのアンケートを実施。</li> <li>生徒の状況を把握して、生徒指導にあたっているか、情報共有を進めているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が指導の必要性を理解できているか。</li> <li>アンケート結果を適切な対応に生かしたか。</li> <li>職員が、常にカウンセリングマインドを意識しているか。</li> <li>全職員の情報共有が出来ているか。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>身だしなみ指導を徹底することで生徒の規範意識を向上させることが出来た。</li> <li>いじめについてのLHRを定期的に行い、またアンケート結果をうけ、丁寧な指導を実施している。</li> <li>学年会、学校いじめ防止委員会、ケース会議を必要に応じて開催し、情報を共有して対応した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ運動、身だしなみ指導、SNSの活用指導を通じて、生徒の規範意識、人権意識を向上させる。</li> <li>全職員がSC・SSW等と連携しながら、生徒の変化に気づき、早期に対応できる組織と現職教育等で人権意識を高めさせる。</li> </ul>

学校関係者評価	
令和5年 2月 24日 実施	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>非常に様々な創意工夫を凝らした取組を行っていただいております。</li> <li>スクールポリシーの策定により学校の特色を明確に出来た。</li> <li>県外からの生徒の受け入れは、2年目となり、昨年度より増えているので、さらなる充実を期待したい。</li> <li>かつらぎ町との連携を強化し、地元の小学校や地域公民館の方々との協力関係を継続して続けてもらいたい。</li> <li>和歌山農林大学校との連携、一環教育プロジェクトを更に推進していただきたい。</li> <li>野球、ハンドボール、和太鼓、測量、フラワーアレンジメントなど特色のある活動をアピールし生徒の自信となることを期待したい。</li> <li>更に地域に貢献し、地域から愛される学校になっただきたい</li> <li>小学校、中学校への取組については、親をどれだけ農芸高校側に取り組むことが大事だと思います。</li> <li>農業従事者の減少と高齢化、それに伴う耕作放棄地が増加しています。一人でも多く農業に興味を持ち携わってくれることを期待しています。</li> </ul>	